見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

May 2026 vol.145

◆普元寺（海嘯溺死者供養塔）

所在地：西尾市一色町一色西乾地

交　通：ふれんどバス「味浜西」停 南東 約 200m

明治 22 年高潮災害は、明治 22(1889) 年 9 月 11 日にこの地域を襲った台風によるものです。台風は 11 日午後に紀伊半島から濃尾平野に入り、19 時頃には名古屋の西を通過して北東に進み、中部山岳地方へと進路を取りました。この台風により、愛知県全域で暴風雨となり、三河湾・伊勢湾に高潮が発生し、沿岸部では特に大きな被害が発生しました。また、豪雨により豊川・逢妻川が氾濫するなど、三河地方を中心に山間部でも被害が発生しています。

愛知県災害誌によれば、この高潮災害による愛知県の死者は 876 名、負傷者は 79 名、家屋の倒壊、流失はそれぞれ 7,000 棟余りに上り、堤防は 160km にわたり決壊し、1,379 か所の橋が流出するなど、県内で大きな被害が発生しました。三河湾沿岸地域を中心に、県内各地にこの明治 22 年高潮災害の犠牲者を慰霊する慰霊碑が残されており、高潮の被害を大きく受けた地域のひとつ、西尾市の旧一色町の地域にも、3 つの慰霊碑があります。

一色中屋敷の崇用寺には、水害溺死者・浄土三部妙典書写供養塔があります。供養塔は、明治 22 年高潮災害による犠牲者を慰霊するもので、小石に三部経が刻まれ、塔の下に埋められています。供養塔の建立にあたっては、佐久島から運んだ石が用いられました。



水害溺死者・浄土三部妙典書写供養塔（崇用寺）

生田中菅野の憶念寺には、水害碑があります。水害碑は、明治 22 年高潮災害による生田・千間地区の 58 名の犠牲者を慰霊したもので、明治 28(1895) 年の建立とされ、表面には高潮による被害の様相が、裏面には水害時の水位が刻まれています。

一色西乾地の普元寺には、海嘯溺死者供養塔があります。供養塔には、明治 22 年高潮災害により周辺の中外沢村、小藪村、細川村で 103 名の死者があったことが刻まれ、犠牲者への慰霊の気持ちが込められています。

昭和 28(1953) 年 9 月には、明治 22 年の台風のやや東に進路を取り、県内でよく似た被害の傾向となった第 13 号台風による災害がありました。明治 22 年高潮災害による被害の大きかった旧一色町では、教訓を活かして被害が抑えられたとされています。こうした慰霊碑も、地域の災害を伝え、後年の災害による被害を減らすのに一役買ったものと考えられます。被害の軽減に向け、地域に残る史跡に込められた思いを読み取り、教訓を確実に伝えていくことが重要です。



水害碑（憶念寺）



海嘯溺死者供養塔（普元寺）

地域に残るこうした貴重な史跡を多くの方に知っていただくため、愛知県において、『歴史風水害記録に学ぶ防災・減災ガイド』が作成されています（https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/guide-rekisihuusuigai.html）。以前に発行された地震編とともに、ぜひご覧ください。







◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 坂田神社 (vol.74,2020.6)

所在地：西尾市一色町坂田

交　通：名鉄西尾線「吉良吉田」駅 西 約 6km

昭和 28 年 13 号台風は、昭和 28 年 9 月 25 日に日本列島を襲った台風で、午後 5 時過ぎに志摩半島を横切り、伊勢湾を経て、午後 6 時半過ぎに知多半島に上陸しました。被害を大きくしたのは高潮で、25 日夕方には大潮の満潮と台風が重なり、海岸堤防を破壊し大きな災害となりました。

この 13 号台風により、当時の一色町でも堤防が 51 箇所で決壊、全町の 80%が浸水しましたが、亡くなった方は 16 名にとどまりました。この理由のひとつに、地域での声かけや、過去の災害の教訓を生かした行動がありました。経験者の証言によれば、「明治 22 年 (1889) 年の水害経験者が集落に数人いて、彼らは台風で堤防が決壊しそうだと気づいていた。だから、2 日前から女性と子どもを避難させ、集落に残った若い男手は彼らの指示に従って動いた。」とのことです。明治 22 年の水害で、一色町では 170 名余りの方が犠牲になっていますが、この水害を経験した方が、数日来高くなっていた潮位から堤防の決壊を感知し指示を出して、避難などの行動を促したとのことです。また、海の様子が尋常ではないと気づいた人々が、昼過ぎから家族を親戚宅などに避難させていたケースもあり、信頼できる身近な人からの呼びかけが避難行動につながっています。

一色町には、明治 22 年の水害、昭和 28 年 13 号台風にまつわる記念碑が数多く残されています。坂田神社にある十三号台風水害記念碑はそのひとつです。過去の災害の経験や教訓の言い伝えとともに、それを人々の心に刻み続けるべく、記念碑が残されています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.74（https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html）をご覧ください。

★ 三河一色うなぎまつり

全国でもトップクラスの生産量を誇る一色産うなぎ。2026 年は 6 月 27 日 (土)、28 日 (日) に、一色町の一色さかな広場で、一色産うなぎや三河一色えびせんべい、あさりなどの地域の特産品を PR する、三河一色うなぎまつりが開催されます。



西尾市観光協会 HP より

例年、一色のブランドうなぎと愛知のブランド米を使用したうなむすびの無料配布や、一色産うなぎの蒲焼・白焼の直売、肝焼串の直売などが行われるほか、西尾の特産品の販売やキッチンカーの出店もあります。また、職人体験として、うなぎの蒲焼体験やうなぎつかみ体験、えびせんべいの手焼き体験なども楽しむことができます。当日はステージイベントも行われ、多くのうなぎファンで賑わいます。

～自動車で巡る～



photo AC より

国道 247 号は、名古屋市熱田区から南下、知多半島を周回したのち、衣浦湾を渡り、三河湾沿いを経由して豊橋市に至る、総延長 172.7km の一般国道です。

旧一色町を通る区間では、明治 22 年高潮の慰霊碑のある普元寺、崇用寺のすぐそばを通ります。鰻屋も多く並び、一色さかな広場へつながる一色港線も接続しています。

●ブレイクタイム●

♪ 三河一色えびせんべい

西尾と言えば鰻や抹茶が浮かびますが、えびせんべいも負けてはいません。全国シェアは一色産うなぎの 2 割に対し、三河一色えびせんべいは 6 割にも上っています。約 100 年前に、味の良い生エビを使用し北海道産じゃがいものでんぷんでうまみを増したえびせんべいが創案されたのが始まりで、大量生産のための機械化やナイロン袋による包装技術の進化にも貢献しました。現在は 3 割の手焼き職人と 7 割の機械自動焼き業者が共存し、歴史ある地場産業として発展を遂げています。



西尾観光 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ（https://www.saitoseeing2020.jp/）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター　2026 年 5 月）